

会 議 録				
平成 18 年度第4回 社会教育委員の会議	日 時	平成 18 年7月 24日(月) 午後2時 00 分～4 時 00 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	福島議長、彦坂副議長、兼森、堀井、藤川、田中、武田各委員 (欠席) 井土委員、柿崎委員、君塚委員		
	その他 事務局	石川教育部次長、中嶋公民館長、古屋図書館長、林体育課長、中島主査 木村生涯学習係主事、宇佐見非常勤嘱託職員		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 平成18年度都市社連協第1回理事会の報告について				
(2) 平成18年度都市社連協第5ブロック代表者会議について				
(3) 自然体験教室の報告について				
(4) 体育課事業について				
(5) その他				
2. 協議事項				
(1) 管外視察研修について				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 平成18年度都市社連協第1回理事会の報告について				
(福島議長)				
〔理事会資料に基づき報告があった。参照:理事会資料〕				
(2) 平成18年度都市社連協第5ブロック代表者会議について				
(中島主査)				
6月26日(月)に府中市役所で開催され、主にブロック研修会をテーマに討論されました。第5ブロック研修会は10月14日(土)午後1時半から、府中市郷土の森博物館で開催予定です。研修会の統一テーマは「地域をつくる社会教育」で、第5ブロックのテーマは未定です。分科会方式で進める案が出ましたが、最終的に府中市一任となっております。テーマとして「2007年問題に対応した施策」が提案されています。テーマ及び進め方については幹事市の府中市から通知があります。				

社連協交流大会は11月25日(土)に開催予定で、7年以上社会教育委員として尽力頂いた方の推薦をお願い致します。指導者研修会は平成19年1月、来年度総会は平成19年4月21日に予定されています。全国社会教育研究大会は平成19年度が香川県で10月24日～26日に開催、平成20年度は長野県で開催予定です。

(3) 自然体験教室の報告について

(中島主査)

夏の自然体験教室が7月8日(土)、9日(日)に市立清里山荘を利用し、清里高原で行われました。定員30名に対しキャンセルがあり参加児童は27名で、スタッフは森林インストラクタ4名、学生ボランティア2名、職員2名の計8名です。自然観察のトレッキング、キャンプファイア、野鳥観察、水中生物の採取や川遊びを行い、事故・けが等なく帰りました。

(石川教育部次長)

清里山荘は9月より指定管理者制度へ移行致します。生涯学習課が直接実施する自然体験教室は今回で終了し、次回からは指定管理者が企画立案することになります。

- ・事業含め全て指定管理者が予算化します。備品や消耗品などに関しては協定書に謳われており、市が最低限行うことの予算化は致します。
- ・申し込み方法などの変更も含め、詳しくは8月15日号の市報に掲載致します。

[教育委員会として、子どもたちの教育に関する目配りについて]

少年自然の家として教育事業を伴う施設でもあり、情報提供や定期的な協議を行い遺漏の無いように致します。実績等は指定管理者からの報告により、社会教育委員の会議に報告致したい。

(4) 体育課事業について

ア. 平成18年度いきいき健康スポーツ教室の実施結果について

(林体育課長)

小金井市体育協会への委託事業として、5月12日から7月7日迄の金曜日に9回に渡り行われました。定員30名に対し、申込者60歳代～80歳代の方28名、延べ188名が参加し、全体での参加率は75%でした。実施前半に比べ後半の出席が低下する傾向にありました。

(社会教育委員)

高齢者にきつい種目もある。種目内容や組合せに工夫が必要だ。また、楽しく続けながら健康に対する仲間づくり、世話する立場や市民活動に発展する仕組みが必要と思う。

(5) その他

ア. 小金井市子ども読書活動推進計画(平成16年3月策定)の実施状況について

(古屋図書館長)

「小金井市子ども読書活動推進計画の目標年度」は所管課の計画実施状況をまとめたものです。7月20日(木)に図書館協議会に報告済みですが、8月中に各所管課と調整会議を行い、実施状況内容を確認の上、10月の図書館協議会で報告させて頂く予定です。

施策項目の「学校図書館補助員の配置」に関し、6月議会の厚生文教委員会で「市内小中学校図書館補助員の専任職員の雇用に関する陳情書」が出され、専任職員の派遣が平成15、16年度は週2回のところ、平成17年度は週1回で、「事業の後退ではないか」との質問がありました。所管課の回答では、平成15、16年度は緊急雇用促進法による国の補助によるものであり、また当初計画では平成19年度に検討、20年度に実施の予定となっており、それに比べ後退とは言えないのではないかとのことです。厚生文教委員会ではこの件に関し継続審議となっております。

図書館協議会の対応を問われ、子ども読書活動推進計画の取組みの見直し、実施等に関しては見守っていきたいと答弁致しました。

[図書館協議会の委員として追加説明]

小金井の子ども読書推進計画は協議会でも議論されかなり期待されている。この計画は庁内で作成された案を図書館協議会で検討しフィードバックしたもので、実施状況等を検討していく機関として図書館協議会が位置づけられている。

しかし、図書館協議会が検討するには、実施状況のまとめとして充実した内容でないと難しい。所管課の担当者が出席できるようお願いしたい。

年3回の図書館協議の会議は残り2回しかなく、図書館運営体制についての答申も出ていることもあり、今後の協議時間の不足が懸念される。

(石川教育部次長)

小金井の子ども読書推進計画は5年の期間で教育委員会が作成したものであり、図書館協議会で充分審議できれば良いと思いますが、通常年では諸事情により難しく、今年度は3回となっております。効率的に進めるには、内部的には所管課と会議し、協議会には事前に充実した内容の資料を提示することで一定量の目が届くことになると思いますので、よろしくお願い致します。

[学校図書館補助員の配置は週3回にとの要望もあるが]

(石川教育部次長)

予算の都合もあり詰めきれない部分もありますので、難しいかと考えています。工夫が可能であれば探したい。

〔PTAなど保護者だけでなく、学生ボランティアなども活かし推進して欲しいとの意見があった〕

イ. 第19期小金井市公民館企画実行委員について

(中嶋公民館長)

7月11日教育委員会定例会に「小金井市公民館企画実行委員の選任に関し同意を求めることについて」議案を提出し、同意を得ましたので、7月21日公民館本館にて20人に辞令伝達式を執り行いました。

追加募集については、同教育委員会にご説明を致しました。現在、予定通り実施中です。

ウ. 第47回関東甲信越静公民館研究大会について

(中嶋公民館長)

全体会が平成18年8月24日(木)午後12時10分より群馬県前橋市民文化会館にて、分科会が翌25日(金)午前9時より前橋市総合教育プラザにて開催されます。参加者は公民館運営審議会委員2名、公民館長1名です。全体会テーマは「公民館の原点から新たな創造へ～つどう・まなぶ・ひろげる公民館～」、分科会テーマは14テーマありますが、小金井市からは第2分科会「公民館運営審議会の果たす役割」に全員参加致します。理由は、担当都県は東京都、発表者は町田市の川島公運審委員長で、東京都公民館連絡協議会委員部会の部会長として加盟17市の公運審委員取りまとめ役であり、今回小金井の公民館研究大会にご協力を頂いています。そこで、委員全員で東京の公民館について参加してまいります。

エ. 社会教育関係団体について

(石川教育部次長)

6月27日から7月24日までに追加登録が2団体あり、現在、合計84団体です。

2. 協議事項

(1) 管外視察研修について

(石川教育部次長)

管外研修先として川崎市臨港中学校及び菅生中学校には、11月28日(火)に伺うことで調整中です。更に川崎市役所も回る場合、午前8時頃に集合し、9時半に菅生中学校、午後12時半に川崎市役所、2時半に臨港中学校、6時半頃に小金井に戻る多少厳しい行程になりそうです。

(社会教育委員)

・川崎市役所の取組みに熱意を感じられる、ぜひ意見を伺ってみたい。

・「何を見てくるか」にかかっている。宮前地区の資料によると、菅生中学校区は地域教育会議の活動が活発なようだが、他中学校区はそうでもないようではつきがある。全体として且つシステムとしてみる必要があるので川崎市役所にも伺ってみたい。

・良い研修成果が得られるのならば、時間がかかることは構わない。

(石川教育部次長)

実際に行ってみないと、文字資料だけでは知りえないこともあると思われます。事務局としても川崎市の取組みを知りたいところがあります。

[川崎市の地域教育会議への取組みに対しての質問内容について]

- ・ 事前に質問事項を提示したほうが川崎市として対応し易く、効率的に視察もできる。
- ・ 地域教育会議が求められた素地、背景は。
- ・ 地域教育会議をどのような手順と過程を経て構築していったか。運営はどのような人により行われ、また行政の予算を設けているか。
- ・ 当初、及びその後行政はどのような役割を果たしてきたか。
- ・ 地域教育会議が現在どのような役割をしているか。

[事例資料から見た川崎市の状況と小金井市の比較]

- ・ 教育委員会がきっかけを作り、民間の協力を得、その後に民間が運営するようになった。
- ・ 行政、学校が積極的に参加しているようだ。
- ・ 問題が発生し、危機感の中から進められた背景があった。対して、小金井は比較的安定しバランスがとれている。学校教育の立場もあり、教師がどの程度必要とするかに関係する。
- ・ 地域教育会議が子供たちのためだけでなく、地域の生涯学習活動の場、基盤づくりのきっかけにもなっている。
- ・ 小金井市は少数の5中学校区であり、仕掛け作りはし易いのではないか。

[事例としての資料内容が古い。現状などを知るため、できれば新しい情報が欲しい]

(石川教育部次長)

直近の情報などを調査し、次回9月の会議に合わせ事前にお伝えできるようにしたい。

(2) その他

ア. 地域教育会議と企業の連携について

企業にも地域に貢献する意思がある。地域教育会議の対象として企業もとらえたら良い。

イ. 地域教育会議と青少年健全育成との兼ね合いについて
独自の活動をしつつ、どのような形で連携するかを考える必要がある

以 上